



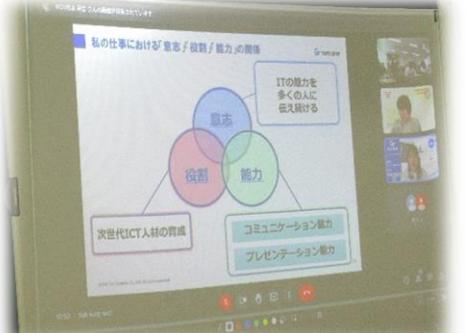
2学年 学年だより

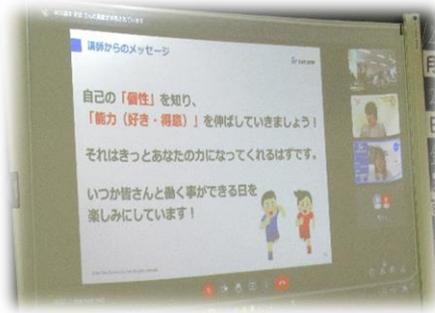


令和4年12月23日
大和市立つきみ野中学校
第17号

キャリアチャレンジデイを終えて

12月2日（金）、4つの企業によるオンライン授業が行われました。生徒たちは、自分の興味のある2つの企業を選び、それぞれの講師から、仕事やSDGsに対する取り組みなどのお話をうかがいました。大阪府と愛知県の中学校も同時に参加し、普段とは違う緊張感もある中、前半の講義パートでは、メモを取りながら真剣に耳を傾ける生徒の姿が見られました。後半のインタビューパートでは、代表になった生徒は緊張した様子を見せながらも、画面の向こうにいる講師に、しっかりと質問をすることができました。当日を迎えるまでに、4回の事前学習を行ってきました。クラスごとにねらいを理解し、「働くこと」について考え、「職業・職種について知る」1回目。クラスごとに企業・団体やそこで働く人について調べながら、「意志」「役割」「能力」の視点で、講師に聞きたいことを書きだし、整理する2回目。当日と同じグループで検討し、質問の優先順位を決めた3・4回目。生徒たちは事前学習の成果を存分に発揮できたのではないかと思います。事後学習は、クラスごとに、各企業の講義内容をクラスメイトと共有し、振り返りをしました。「働くこと」や自分の将来について考える良い機会になったのではないかと思います。当日の写真と生徒の振り返りを紹介します。





〈キャリアチャレンジデイ振り返り〉

- 今からの生き方が、将来のすべてにつながっていくから、まずは自分と向き合い自分を知ることから始めようと思う。そして、社会のために自分がしたいこと、自分にしかできないことを考え、いつかそれを仕事に生かしていくことができれば、自分にとっても社会にとっても良いのではないかと思った。(1組)
- お話をうかがい、仕事について深く知ることができました。働くときには、自分の意思を持って働くことが大切なんだなと思いました。これから、一つ一つ、苦手なことを克服して、成長していきたいです。(1組)
- 仕事を選ぶときには、「その仕事が自分の成長に繋がるか」「自分の能力・好み・特技を生かせる仕事か」などを考えることが大切だとわかった。(2組)
- 働くときは、自分のやりたいことをするのも大切だけど、顧客、社会とも関わっていることを考えて、働くことができれば良いなと思った。(2組)
- これからどうしたいのかという目標を持ち、それを達成するためにどうするべきなのかを考えることが大切だと思った。(3組)
- キャリアチャレンジデイを通して、私は「コミュニケーション能力」というのが大切だと知りました。私が聞いた2つの会社の方が共通しておっしゃっていたからです。しかし、コミュニケーション能力の身につけ方は、「とにかく誰かと話す(実践する)」という意見と、「コミュニケーション=情報伝達だから、特に能力は必要ない、伝わればいい」という2つの意見がありました。能力のつけ方というのは、あくまで個人のものであり、みんな共通というものではないのだなと思いました。それから将来の夢について、焦って決める必要はないのだなと思いました。松井さんは、「将来のことはゆっくり考える」「しめきりはない」とおっしゃっていました。私は、高校を決めるころまでにはある程度決めてなくては、と焦っていたけれど、焦る必要はないと分かって少し安心しました。松井さん本人も好きなことをやってみた結果、あまり楽しくなくて変えたとおっしゃっていたので、私も、まず好きなことを見つけて、それに関係する仕事にチャレンジしたいと思いました。失敗しても、また新しい道を見つけることが出来ると分かったからです。(4組)

- 自分が儲けるためだけに働くのではなく、自分が働くことで社会に貢献し、たくさんの人に夢や希望を与えることが大切なのだと思います。また、自分がやりたくない職業につくのではなく、時間をかけてもいいから自分がやりたい職業に就職するべきだとキャリアチャレンジデイで学ぶことができた。(4組)
- キャリアチャレンジデイを通して、「働く」ということは、単純にお金かせぎのためだけでなく、人を喜ばせ、縁の下の力持ちのように人を下から支えるということも、目的の一つなのではないかと気がついた。私も人を下から支えることができる仕事がしたいと思った。(5組)
- 人によって働く理由や目標は異なるし、業種や職種によって取り組んでいることは違うけれど、最終的な目的は重なる部分もある。働くことで自分の人生や社会に新たな価値を見出すことも、社会貢献もできる。(5組)
- キャリアチャレンジデイを通して、あきらめない、とりあえずやってみる、やりがいを見つける、ポジティブに考える、物事を別の角度から見る、自分の好きなものを捨てない、などのことが大切だと分かった。他にも、いろいろな団体や企業の話聞いて、いろいろな仕事があることを実感した。(6組)
- 私がお話をうかがった会社は、どちらも社会問題解決について考えていた。けれど、どれだけ会社が社会問題に向けて一生懸命取り組んでいても、地球に暮らしている人間一人一人が意識して生活しないと、この先、社会が変わっていくことは難しいのだということがよく分かった。ただ働くだけでなく、沢山の仲間と人と話をし、意見を出し合い、最も良いと思える考えにもっていくことが大切だと分かった。働くということは、生活をするため、好きなことをするため、と自分自身のことを考えてばかりいたけれど、今回学んだことで、仕事は別の側面を持っていることに気がついた。保育士も店の人も、「好きだからという理由だけで働いている」と思っている人でも、誰かのためになっていて、沢山の人が幸せになっている。仕事はすごいんだということが分かった。(6組)
- 自分が社会で何をするすることで、どんなふうに社会に役立つことができるのかを考えることが大切だと思った。(7組)
- 何事にも挑戦し、なるべくプラス思考で考える。周りの人とのコミュニケーションをしっかりとることが大切だと思った。(7組)
- 授業前、人は自分の収入のために働く…つまり自分のために働くのだと思っていた。しかし、授業を通して、阪急阪神さんの理念にもあったように、お客様を第一に考えて働いたり、ネットワンさんの理念のように、社会を発展させるために働いているのだと、知った。よく考えてみれば、私たちの生活は、無数の企業に支えられている。ネットワンのように、目には見えないけれど、実は身近な生活を支えている仕事もたくさんある。私たちはどうしても、スポーツ選手や芸能人、店の経営者など、目立つ仕事に憧れ、そのような仕事に就いた人が成功者と言ってしまいがちだが、働いている人は、誰もが、生き生きと充実感を持って働いていることが分かった。そして、その充実感のもととなるのが、社会やお客様の生活に貢献できたときのやりがいや、自分の仕事の成果が表れ、今までやってきたことが無駄じゃなかったと思えることだと思う。それを感じるのに必要なものが、コミュニケーションや豊かな想像力などの力である。要するに、働くということは「身につけた能力をもとに意思を持って積極的に取り組み、役割を十分に果たせるように努める」ことだと思う。(8組)
- 自分が働くことについては、まだ全然イメージがわからないけれど、私達に向かって生き生きと説明してくれた2人の講師の方々には率直にかっこいいなと思った。私は全然やりたいことも決まっていないし、なりたい仕事もないけれど、ほこりを持てる仕事につきたいと思った。ま

た、働くということは、自分の好きなことや得意なことを生かして、社会に貢献することなのではないかとも思った。今から私にもできることは、講師の方もおっしゃられていたとおり、勉強を全力で頑張ることと、コミュニケーション力をみがくことなのではないか。私には何か特別な能力があるわけではないが、今できることを全力で頑張ることはできると思うので、それを続けていけたらなと思った。(9組)

- 私は、今日の講義を受ける前、「働いて辛そうだな」と、思っていました。また、「社員は労働を好まずに働いているんじゃないかな」とも思っていました。しかし、話を聞いてみると、社員一人ひとりが、それぞれ違った目標を持ち、やりがいを感じながら働いているのだと知ることができました。また、今現在、ニュースで見えるような経済状況(円安など)は、私たちの生活にも影響しているということを知って、驚きました。経済状況によって、社会の取り組みも変わってくるんだなと思いました。SDGsなどの取り組みも、身近なところで行われていることを知りました。(9組)

保健講話～生命と性の健康教育～

12月12日(月)、昭和大学の上田邦枝教授をお迎えし、「生命と性の健康教育」をテーマにお話しいただきました。私たちの命は奇跡のような確率で誕生したものであるということ。「性」という字は「心」が「生きる」と書き、本来、生と性は共に歩む存在であること。しかし、近年の若者は、一部の過激な表現や偏った考え方により、性行動を過剰に追求することや、反対に性を否定的に捉える若者がいること。性感染症予防の正しい知識。早過ぎる妊娠が起こした悲しい結末。上田先生は、具体的な体験談を交えながら、思春期の生徒たちが今知っておくべき、様々なことを教えてくださいました。講演中には、新生児と同じくらいの重さの沐浴人形を抱っこする体験学習も同時に行われました。ぎこちない手つきで人形を抱っこする生徒たちの腕を通して、命の重みが伝わったのではないのでしょうか。これを機に生徒たちには、命と性について深く考えてほしいと思いました。



〈生徒感想文〉 内容 1：講演を聴いて、理解したことや感じたこと

2：今後の生活で、自分が気をつけることは何か

1：胎児はとても小さいけれど、耳や味覚の機能がしっかりしていることを知って驚いた。また、女性はかなりの確率でヒトパピローマウイルスに感染するけれど、それがガンに変わるまでには時間もかかるから、ワクチンや定期検診をしっかりしようと思った。

2：ケンさんとミカさんの話が衝撃的だった。自分と同じ年ごろの人が、赤ちゃんを産んで、そこから彼らの人生が悪い方にいってしまった。子どもができたとき育てられるのか、を考えて行動をするべきだと思った。(1組)

1：赤ちゃんをだいてみて重みを感じました。私もこんな風に母から生まれてきたのだなと思いました。今回の講話で、母が私を生むとき、私のために栄養をとってくれ、自分がやりたいことを後回しにして、一番に考えてくれていたことが、わかりました。

2：お母さんは、私が生まれる前から、私のために色々やってくれ、今でも毎日のご飯、お弁当、洗いもの、その他色々なことをやってくれているから、私もお母さんのために、少しはお手伝いしたいなと思った。(1組)

1：どんなに小さい赤ちゃんでも、自分たちと同じだけの大きな価値があるのだと、命の大きさや大切さを感じた。自分の体を売ったりすることは、もともとダメだとわかっていたけど、講話を聴いてもっといけないことなんだ、また犯罪なんだと知ることができた。

2：相手や周りの雰囲気流されたり、「ノリ」で危ない方に行くのはダメだから、どんな時も自分の意志を貫き通せるような人になりたい。(2組)

1：子供を産むというのは、とても大変だなと思いました。男性とは違って、女性の性は、取り返しのつかないことにもなりかねない重大さをあらためて感じました。

2：自分の行動に責任をもって行動し、何か起きたとしても最後まで責任を持とうと思った。(2組)

1：講演を聞いて、親に感謝しないといけないなと思いました。赤ちゃんの人形を持ってみて、これが本当の赤ちゃんで、自分の手にこの子の命がかかっていたら、と想像すると少し怖かったです。でも、貴重な体験ができてよかったです。

2：自分自身を守ること、ちゃんと言葉で自分の気持ちを相手に伝えること、親への感謝を忘れない、この3つが大切だと思いました。(2組)

1：自分が今ここにいるのは、お母さんが大変な思いをして生んでくれたことがあったからだと、改めてわかりました。また、実際に赤ちゃんを抱いてみて、たった数分なのにとても重く感じました。そして、命の大切さを知ることができました。

2：お母さんお父さんのありがたさを理解したので、お手伝いをたくさんして、できるだけ迷惑をかけないように気をつけたいと思った。また、自分をもっと大切にしたいと思った。(3組)

1：異性関係を大切にしていけるような人間になりたい。

2：一時の気の迷いで行動するのではなく、しっかり考えて行動したい。相手を気遣えるようになりたい。(3組)

1：性というものはものすごく近くにあって、大切でもあり、危険でもある存在なんだなと感じました。正しく理解ができていないと自分の人生もこわしかねないので、今日学んだことを心にとめておきたい。

2：彼女ができるなんて一生無いかもしれないけれど、来たるべき日に備えて、性についてしっかりと考えていきたいと思った。(4組)

- 1：自分の性を理解することや、今後大人になり男性と性的関係を持つ時は、もしもの時や将来的な事などを互いに話し合うことが大事だということを学ぶことができました。ムードに流されず、理性的な判断をする事がどれほど大切なのかを改めて理解することができました。
- 2：性について学び、男女が互いに理解しあうことを第1に考えたいと思いました。また、今回の授業の内容を、他の人（親など）に伝え、「性」の大切さを広めていこうにしたいです。改めて性→いやらしいを上書きして、自分がこの性別に生まれてよかったと、幸せに思えるような人生を生きていきたいと思いました。（8組）
- 1：赤ちゃんが生まれる確率が250兆分の1ということを知って、とても驚きました。私たちが、あたり前に生きていることが、どれだけ奇跡的なことだったかということに、感動しました。また、それと同時に、生命はとても大切で、とてもはかないということが改めて理解できました。
- 2：大変な思いをしながら、生んで育ててくれた母に、言葉で「ありがとう」と伝え、自分にできることをどんどんやっていきたいです。（9組）
- 1：赤ちゃんの重み、命の重みや大切さを感じることができた。興味本位の軽はずみな行動は、彼女の気持ちや親の気持ち、新しい命を傷つけてしまうということを理解した。ミカさんとケンさんのように、中学生のうちからそのようになってしまうと、この後が大切だと思った。
- 2：自分の軽はずみな行動で相手が傷ついてしまうということを理解し、これから正しい行動を取れるよう意識していこうと思った。もし自分に赤ちゃんができれば、その子を大切に育てていきたいと思った。（9組）

学年レク presented by 中央委員

12月16日（金）に久しぶりの学年レクが行われました。今回は校庭を使って『借り人競争』をしました。『借り人競争』は『借り物競争』の人間版です。各クラス、1走ごとに、手をつないだ3人組が出場し、スタートラインに並ぶと、お題が発表されます。走者は「誕生月が12月の人」「声大きい人」「名前が8字以上の人」などのお題にマッチした人を、石段に座る他クラスの生徒から探し、その人を連れてゴールします。

1位は3ポイント、2位は2ポイント、3位は1ポイントで、全12走のクラス合計点を競いました。総合1位は1組、2位は9組、3位は5組でした。企画から司会、進行まで中央委員が頑張ってくれたおかげで、「楽しかった～」「最高！」などの言葉がたくさん聞こえる笑顔いっぱいの学年レクになりました。中央委員の皆さん、ありがとうございました。





～高校調べ 各クラス選抜作品（中央階段に掲示中）～



保護者の皆様

12月19日（月）に文化発表会の写真の販売「snapsnap」のお知らせをお配りしました。1月26日（金）までが販売期間となっておりますので、ご家庭でお申込みください。

2022年も学校の教育活動にご協力くださりありがとうございました。

2023年もどうぞよろしくお願いいたします。

